

「ハンドボール競技における安全性の確保について」

ハンドボール専門部 磯前 記世 (ふじみ野高等学校)

1、はじめに

ハンドボールは、走・跳・投という運動の基礎となるすべてを備えた競技である。そのため、選手にはそれぞれの技術を無理なく、より高度な次元でバランスよく実践する能力が要求される。その上、比較的狭いコート内で14人がスピーディーかつパワーあふれる動きをすると共に、アドバンテージルールを適用することもあり身体接触が随所におこり、それにとまなう事故が起こりやすいといえる。

2、安全対策について

I, 施設・設備・用具

ハンドボール競技の用具は、すべて協会の検定を受けたものでなければならない。

- ・コート内：(室内) ワックス・ほこり・汗による滑りやすくなった床の配慮。
(屋外) 石・ガラスなどの危険物がないか確認。また、コートの凹凸を事前に平坦に整備する。
- ・ゴールポストの固定：(室内) ボルトで床と固定をする。
転倒防止 (屋外) グランドと基部の間に杭を打つ。
- ・ゴールポストの管理：横に寝かせて管理する。(杭で固定していない場合)
競技用具本来の使用の目的以外に利用しない。
ゴールにぶら下がらない、遊ばない指示の徹底。

II, 服装・身だしなみ

- ・装身具禁止：時計・ネックレス・ピアス・指輪・ヘアピンなど。
- ・爪の長さ：適切な長さに切られているか確認。

III, 身体接触

- ・ゲームマナー、危険なディフェンスについて正しく理解させ、故意に反則をさせない。
- ・審判による危険回避。

3、安全指導について

- (1) 施設・用具の確認。
- (2) 準備運動・整理運動の徹底。
- (3) ルール・マナーの指導の徹底。
- (4) 熱中症対策：気温・湿度を気に向け、こまめに水分補給をさせる。

おわりに

ハンドボール競技において安全に運営していくためには、身体接触の多いスポーツであるため、ルール・マナーの指導を徹底し、怪我をしない、怪我をさせない、という自覚を持ち練習・試合に取り組ませる。また、指導者が危険を回避し安全に練習・試合ができるよう指導していくことが大切である。